

令和7年度 学校評価一覧表(最終評価)

本年度の重点目標	<p>★安全で安心できる学校づくり</p> <p>ア 児童生徒が安心して学ぶことのできる環境づくりに努める。</p> <p>イ 児童生徒、保護者、職員の人権を尊重し合える学校づくりに努める。</p> <p>ウ 最新の情報に基づいた健康管理と安全管理に努める。</p> <p>★教育活動の充実</p> <p>ア 将来の生活を見据え、段階的なつながりのある授業を行う。</p> <p>イ 児童生徒が「やってみたい」と思う授業を目指す。</p> <p>★地域との連携</p> <p>ア 本校の教育活動の理解啓発を図るための情報発信に努める。</p> <p>イ 関係機関と連携を深め、特別支援教育のセンター的機能の更なる充実に努める。</p>
----------	---

項目	部	重点目標	具体的方策	留意事項	評価	評価結果及び今後の課題(最終)
教育活動の充実	小学部	目指す子ども像を実現するための授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、算数の年間指導計画のモデル案の部分的な試行と修正を行う。</li> <li>・体育の年間指導計画のモデル案の検討を行う。</li> <li>・音楽の年間指導計画のモデル案を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部内でそれぞれ検討チームを編成し、校内研究の時間等を利用し、話し合う時間を設定する。</li> <li>・昨年度は十分に話し合う時間が取れなかったため、部職員の意見を十分に出し合えるように丁寧に検討する時間を設け、部分的に試行をしながら改良していくことの共通理解を図る。</li> <li>・学習指導要領の内容を取り入れる視点を大事にしながらも、児童の実態に合うようなものを作成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務による学習指導要領や年間指導計画モデル案についての説明や定期的に校内研究で授業実践及びそれに対する意見交換を行った結果、先生方の見識が深まり、子どもの実態に即した年間指導計画の作成や、より質の高い授業に改善することができた。また、教科書を扱う授業を年間指導計画に入れたことで、学習指導要領に沿った授業を進めることにもつながっていると見える。</li> <li>・来年度は、小学部で自立活動の時間における指導が始まる。今年度のように学年をまたいで意見交換を行うことで、授業の充実に努めるようにしたい。</li> </ul>
教育活動の充実	中学部	教科別の指導における教員の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部全体で取り組む時間を設け、教員同士が効果的に学び合えるようにする。</li> <li>・自立活動の目標を立てる際に、教科との関連を図り、自立活動と関連付けた授業を展開できるようにする。</li> <li>・指導すべき課題を明確にして、生徒が主体的に取り組めるよう学習活動を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究と連動して、部全体で研究授業等の参観がしやすい環境を整える。</li> <li>・各教科の指導に生かせるよう、対象生徒の自立活動について情報共有をする場を定期的に設ける。</li> <li>・各教科の関連や学びの連続性を踏まえた話し合いをし、共有する場をもつ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観カードの活用は少なかったが、部内で研究授業の深掘りをする機会を設けたことで、授業を見合う意識が高めることができた。また、複数人で授業について意見交換することで、各教科の関連や小学部と中学部間、中学部と高等部間の学びの連続性について知見を得ることができた。今後の授業展開や来年度の年間指導計画に生かしていけるようにしていきたい。</li> <li>・自立活動について定期的に情報共有する場を設けることはできなかった。新しい自立活動の様式を通して、教員同士が適宜情報を共有しながら、各教科との関連を意識した授業につなげていけるよう、今後も環境を整えていきたい。</li> </ul>
安全で安心できる学校づくり	高等部	人権を尊重した生徒指導や保護者連携の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検の日を活用して、職員の人権に配慮した行動の習慣化を図る。</li> <li>・特別指導や部集会の場面で適切な指導内容や周知方法を検討し、明確な資料を作成する。</li> <li>・保護者等の対応をする際は、適切な行動がチェックできるよう、複数の職員で対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者など相手の立場に立って、寄り添う姿勢を忘れないようにする。</li> <li>・根拠となる資料や情報の出所を確認し、適宜アップデートする。</li> <li>・生徒心得や各種説明資料等を使い回さずに、気づいたところで検討し必要があれば見直す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の自己点検日に、人権の尊重を含む8項目について1か月の振り返りと自己評価を行う中で、生徒や保護者など相手の立場に立って、寄り添う気持ちをもつことの大切さなどを確認することができた。</li> <li>・複数の関係職員で事前に方針を共有・確認した上で、生徒や保護者への対応を行った。保護者と連携して状況を改善できたケースもあった。</li> <li>・特別指導に至ったケースにおいては、当該生徒自身が今後の生活を見つめ直せるよう、複数の関係職員で指導内容を検討・共有し、試行錯誤しながらも協働して対応できた。</li> </ul>
安全で安心できる学校づくり	教頭	勤務時間の適正な管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間や資源を効率的に使い、はじめつけた勤務をこころがけ、習慣づけていく。</li> <li>・組織の中で、それぞれが役割を果たせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の始まりと終わりを意識し、時間配分を考えながら業務に取り組めるようにする。</li> <li>・報告連絡相談がしやすく、お互いに安心して業務に取り組めるような職場環境を整える。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働き方改革チェックシート」を運営委員と連携して作成・共有し、意識改革、職場環境の整備、業務改善の推進の観点で改革が緒に就いた。</li> <li>・教員の在校時間における45時間超80時間以下の人数は、令和5年度と令和6年度では、年間22.6%減少した。また4月から5月のみの比較では、令和6年度と令和7年度では25.0%減少した。</li> <li>・今後は、引き続き3つの観点の取組を運営委員中心に加速させるとともに、職員全体での取組へと広げていく必要がある。</li> </ul>

項目	担当	重点目標	具体的方策	留意事項	評価	評価結果及び今後の課題(最終)
地域との連携	総務	学校だよりのデジタル化を実施し、本校の教育活動の情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりのデジタル化について、職員や保護者に周知する。</li> <li>・配信スケジュールに合わせて、記事の依頼や配信の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会やマチコミ配信など、さまざまな手段を活用する。</li> <li>・記事担当者が確実に配信手続きができるように、依頼の方法を検討するとともに、次年度以降にも引き継げるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね計画どおりに学校だよりを配信できた。学校ブログについては、情報図書部の協力を得られ、行事終了後から配信までの期間が短縮できた。年度途中に、掲載する写真の選定方針の変更に対応できことも含め、配信までの流れが確立した。</li> <li>・保護者がどの程度見ているのかは把握できていないため、保護者への周知方法を検討し、より保護者が見たいと思えるような内容に改善していきたい。</li> </ul>
教育活動の充実	教務	児童生徒がやってみたいと思う授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究などの時間を活用し、授業実践や教材について話し合う機会を設け、授業改善につなげる。</li> <li>・教科別の指導についての学習指導年間計画を見直し、系統的な学習ができるように改善する。</li> <li>・学習の積み上げができるよう、共有教材フォルダ「みあいライブラリー」の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の参観や動画の撮影および視聴を推進する。</li> <li>・学習指導年間計画の見直しで活用できるよう、教師用教科書や指導書などを計画的に購入したり、棚を整理したりする。</li> <li>・学期初め、学期末に教材の共有と活用を呼びかける。長期休業中に保存されている教材を整理し、分かりやすく分類する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究の時間等で、部ごとに国語、算数など教科の年間指導計画の見直しに取り組むことができた。</li> <li>・授業の話合いを通して、指導方法や指導内容をより深く考えることができた。</li> <li>・「児童生徒がやってみたい授業」を確立するところまでは至っていないが、今後も継続して、みあいライブラリー等の教材の共有や各部の指導内容の整理を進め、教師の授業づくりにおいて、考えやすく実行しやすい体制づくりを目指していきたい。</li> </ul>
安全で安心できる学校づくり	指導安全	いじめの早期発見と未然防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体のアンケートと個別面談を実施し、相談しやすい環境を整える。</li> <li>・職員向けにアンケートを実施し、課題を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が学級関係者以外にも相談できることを知り、周りの大人に相談する習慣を身に付けられるようにする。</li> <li>・アンケートを通して、日頃の指導・支援を振り返り、課題や対応の仕方を部や学年で共有し職員の意識を高め、いじめの早期発見と未然防止につなげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見、早期対応を目的とした「心と体のアンケート」の取組の一つとして高等部A、B類型の生徒を対象に個別面談を行った(12月)。生徒の声を個別に聴くことを通じて、課題の早期発見や速やかな対応につなげることができた。個別面談以外の場面でも、生徒からの相談に対して迅速に対応し、問題解決に向けて進めていくことができた。</li> <li>・生徒会活動や人権週間などをうまく活用して、人との適切な関わり方について指導を深められるようにできるとよい。</li> </ul>
安全で安心できる学校づくり	指導安全	防犯・防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな条件で避難訓練を実施する。</li> <li>・マニュアルの見直しと改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余震が起り、安全確保行動を数回とる訓練など、いろいろな状況を想定した訓練を実施する。</li> <li>・防災週間に職員向けの研修を実施する。</li> <li>・防災委員会を中心に、福祉避難所の開設の流れを確認したり、防災用品の整理をしたりする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員向けに放水設備の使い方を確認する消火訓練を行った。新転任者への周知や担当者間での情報共有をすることができた。</li> <li>・通行禁止区域を設定した避難訓練を実施した。不測の状況においても、既定とは異なる経路で安全に避難できるような体制を確認することができた。今後は、最新の防災の方針に沿った訓練内容を検討していきたい。</li> <li>・更新した防災用品リストを定期的に確認し、必要な物品については補充していきたい。</li> </ul>

項目	担当	重点目標	具体的方策	留意事項	評価	評価結果及び今後の課題(最終)
安全で安心できる学校づくり	進路	実習をはじめとする各進路行事の手引きの更新や周知	・手引きや資料の更新 ・紙面回覧・校務支援システムでの周知や啓発	・手引きを更新し、必要事項を精選する。 ・幅広い職員へ周知の場を設定する。 ・手元に必要となる資料は、紙面での回覧を行う。	B	・年度当初に、全校の各家庭に進路の手引きを配付することができた。高等部2・3年生の実習については、説明会の際に本校の進路指導の進め方や留意点等について伝えることができた。 ・グループウェア、進路の掲示板、パンフレット置き場の設置により、地域の事業所に関する情報等について保護者や職員に発信することができた。 ・今年度途中から開始した「就労選択支援」の新サービスの情報をまとめ、保護者や職員へ分かりやすいかたちで発信していきたい。
安全で安心できる学校づくり	支援	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用を含め、児童生徒、保護者、職員への支援の充実を図る。	・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを活用する。 ・研修会を実施する。 ・専門家の意見を校内にわかりやすく情報発信し、児童生徒理解、保護者理解につなげる。 ・他の分掌とも連携し、支援体制等役割分担を整理する。	・スクールソーシャルワーカーによる研修の内容については、関係機関との連携の方法や事例を取り上げ、SSWの活用方法を職員に周知する。 ・校務部会において、支援の必要な児童生徒について情報を収集し、どの機関につなげるとよいか検討する。 ・情報発信には校務支援システムや回覧等を利用し、校内職員が相談しやすい環境を整える。	A	・スクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラーは積極的に活用され、児童生徒及び保護者への支援につながった。職員の利用も増えつつある。次年度に向けて「活用までの流れ」の明文化による整備と周知を図っていききたい。 ・校務部会において、対応が必要となっている児童生徒の情報や巡回相談、ひまわり相談の内容を共有、検討した。所属部以外の様々なケースに目を向ける機会となり、部員の知識を深めることができた。 ・各相談等で支援部が得た情報は、状況によって校務支援システムと回覧を使い分け発信した。各部や分掌、関係者との速やかな連携につながった。
教育活動の充実	研修	「教科別の指導における授業づくり」をテーマに校内研究に取り組み、教科別の指導の充実を図る。	・個別で授業計画の立案や教材研究を行い、互いに授業を参観して意見交換をすることで、個々の授業力を高める。 ・教科ごとに年間指導計画や指導内容を児童生徒の実態に応じて見直す。 ・教材、教具の共有を推進する。	・教科ごとに少人数グループを組み、話し合う時間を多く確保する。 ・グループで授業実践を共有できるよう動画撮影をする。 ・内容によって話し合いのグループを弾力的に活用する。 ・教材教具を幅広くみあいライブラリーやお役立ちカタログで共有できるよう呼びかける。	A	・教職員を対象に行った校内研究のアンケートでは、「校内研究が役に立った」の回答が76%だった。座席配置や活動の待ち時間を減らす工夫など、校内研究で得たことを自分の授業等で活用する流れができてきた。 ・教科の枠組みの中で学年を超えて年間指導計画を見直すことができ、教科内での話し合いが深まった。 ・各部で報告会を行い、他のグループでの課題や成果を部内で共有することができた。
地域との連携	情報図書	分かりやすい情報発信を行うことと、最新の情報への対応を行う。	・校外向けホームページやメール配信をより細かく活用して、保護者や地域に分かりやすい情報発信を行う。 ・新しいルール、新しい知識を職員に周知する。 ・蔵書の見直しや新規購入を積極的にを行う。	・古いコンテンツの整理、最新情報へのアップデートを早いうちに行う。 ・個人情報の保護、著作権、生成AI等利用時のルールを早期に検討し、策定する。必要に応じて研修を行う。 ・児童生徒への聞き取りを行って蔵書の刷新を行い、児童生徒が魅力を感じる書籍を増やす。	A	・学年ごとのメール配信が軌道に乗り、各種お知らせができるようになったことで、紙媒体の使用を減らすことができた。 ・教員による生成AIの利用に関する基準を作成・周知した。2学期から利用する様子が見られた。 ・図書の蔵書購入や廃棄については順調に進めている。 ・来年度は新高1生徒のタブレット端末の持ち込みが始まるほか、現児童生徒用端末がリースアップを迎える。また盗撮防止のための対応を継続して行う必要がある。これらの課題に取り組んでいきたい。
安全で安心できる学校づくり	保健体育	緊急対応について整理し、充実を図る。	以下の対応について検討・整理を進め、全校へ周知していく。 (1)異物混入等により、急遽給食のメニューが変更されたときの対応について(アレルギー、医療的ケア) (2)救急搬送時の役割分担、誘導、救急車の停車位置などについて (3)プールで緊急事態が発生したときの対応について	・6年度は給食メニューの変更が複数回あり、市の対応はさまざまであった。それらにどう対応するかをパターンごとに検討し、誰でも対応できるように、全校に周知していく。 ・救急搬送については、昨年度から検討を始めている。今年度中に対応をまとめ、分かりやすく全校に周知していく。 ・鍵の扱いについては6年度に整理した。加えて初発のてんかん発作の生徒が増えていることから、鍵の扱いと、プールでの緊急対応について整理し、分かりやすく全校に周知していく。	B	・アレルギー児童生徒への安全な給食提供の実施のための対応マニュアルをさらに周知できるように研修の機会などを設定していききたい。給食に関しては、アレルギー対応だけでなく、咀嚼嚥下に関わる部分の対応についても整理していくことで、児童生徒が安全に教育活動での喫食ができるようにしていきたい。 ・緊急事態発生時や救急搬送時の対応はその時々状況により変わってくる。さまざまな状況を想定したシミュレーションを定期的実施していく必要性を強く感じた。マニュアルに合わせ、学校携帯のほか、一緒に持ち歩くことのできる役割分担カードなども作成していききたい。
教育活動の充実	自立活動	他の校務分掌や外部機関と連携し、確かな学習支援が提供できる体制づくりを図る。	・他の校務分掌と連携し、職員のニーズに沿った情報提供をする。 ・外部専門家と連携し、ケース会や研修会を実施する。	・自立活動を実施するにあたって求められる専門性は何かを校務部内で焦点化し、見合った情報提供をする。 ・他の校務分掌と連携し、目標設定や支援内容の選定を分かりやすく導くための書式の検討や、指導内容を充実するための研修を実施する。 ・全校に還元できる外部専門家活用体制について、校務部内で検討する。	A	・自立活動に必要な専門性を高めるための職員研修会(教材教具展、自主研修会)を研修部と連携して実施でき、多くの参加者を募ることができた。 ・教務部と連携し、4月当初に自立活動年間指導計画の作成についての説明会を実施できた。 ・愛知県三河青い鳥医療療育センターや、外部専門家活用事業を活用したケース会や研修会を実施し、多くの参加者を募ることができた。

学校改善のための評価項目(学校関係者評価)

安全で安心できる学校づくり	・児童生徒や職員が、健康的に学習活動に取り組めるように、お互いの人権を尊重しながら関わり合えるようにする。	B	・指導安全部で高等部A、B類型を対象に実施した個別面談の取組から、生徒の声を聴くことの価値を感じ取ることができた。こうした成果を全校職員で共有し、言葉での表現が難しい児童生徒と接する際にも、思いや気持ちを多面的に想像することを大切にしていけるよう啓発を図っていききたい。 ・12月に実施した人権研修では、名古屋法務局岡崎支局から教員経験のある外部講師を活用した。「なぜ教師になったのか」などのテーマについてグループワークでお互いに思いを出し合うことを通して、児童生徒と接する自身の姿勢を振り返る機会となった。
教育活動の充実	・児童生徒の年齢や発達を視野に入れ、自立活動の観点やICTを効果的に活用しながら、将来を見据えたひろがりのある学習活動を意識する。	B	・研修部、教務部、自立活動部で連携して研修の機会を設けたことで、多くの教員が、学習指導要領の目標や指導内容を踏まえた各教科の授業づくり、年間指導計画の見直し、自立活動年間指導計画の様式の見直しについて深く学ぶことができた。また、職員へのアンケート結果から、学んだことを早速実践する様子を確認することができた。 ・教員個々がスキルアップした成果を学校としての教育の質の向上につなげるために、3つの校務分掌が中心となって啓発の取組を続けていきたい。
地域との連携	・保護者や地域の関係機関に対し、本校の教育活動に対する理解や、センター的機能の発揮につながる情報発信を行う。また、情報の内容や状況に応じた情報発信ツールを工夫する。	A	・保護者を対象にした案内や連絡の発信手段(紙媒体の配付、マチコミによる配信)について大きく変容した。変容に至るまでの取組について整理し定着を図っていききたい。 地域への発信において重要なツールとなるホームページについては、サイトマップの見直しを行い改善を図ることができた。特に学校ブログの更新については、総務部と情報図書部の連携により、行事終了後から配信までを速やかにする流れを確立することができた。今後は、保護者、地域の関係機関、関心をもってアクセスされる方にとって見やすく分かりやすい内容を目指して改善を続けていきたい。